

第2節 協調による独占価格の設定

第2節の課題：

- ┌ 独占企業の行動原理
- ├ 独占企業間の協調の諸形態
- └ 価格水準の決定

市場における価格決定：独占的市場においても _____ 関係による価格決定は不変

→ 独占企業間の協調 = _____ 調整による価格支配

→ 競争が全面的支配に支配した場合に成立する価格より高い水準に価格つり上げが可能

供給量の短期的決定と長期的変化

短期的決定： _____ の調整

長期的変化： _____ の変化 = _____ の動向

利潤の長期最大化 ⇒ 投資行動の重要性(第3章)

(1) 独占価格設定における独占企業の行動原理

① 資本主義企業の一般的目的

最大限の利潤の _____ にわたる獲得

(a) 競争的市場

小規模の資本が多数存在

- ┌ 個別資本は価格への影響力を _____
- ├ 協定による協調的行動は _____
- └ 他部門からの参入が _____

⇒ 部門全体の需給の状態や参入の予想など長期的条件の的確な予想は _____

利潤の長期最大化欲求をもちつつも与えられた条件の下で自己の _____ の利潤最大化

(b) 独占的市場

独占的市場構造の形成 ⇒ _____ 的行動をとることによって利潤の長期最大化をめざすことが可能

* 行動原理の変化

② 独占企業の行動原理

(a) 利潤の長期最大化のための協調的行動の合理性

i) 協調による価格支配の可能性

独占的市場構造の形成→価格支配が _____

ii) 敵対的な行動の不利益

独占企業間の価格切下げ競争の特徴

ある企業が市場占有率拡大をめざして、攻撃的な価格政策＝価格切下げを実行したら？

他の企業は対抗的な価格切下げ→価格切下げ競争

独占企業は _____ をもつ→価格切下げ競争の _____

競争市場における対立 _____ 独占企業間の対立

→お互いが深刻な損害をこうむる可能性

⇒独占企業 _____ の利益の長期最大化をめざす方が自己の利益

iii) 巨額の固定資本の存在

独占部門：巨額の固定資本を保有

破滅的価格切下げ競争 → 固定資本回収の _____

勝者の一時的な高利潤 _____ 回収不能となった固定資本価値

投下した固定資本価値の安定的な _____ の重要性

i)～iii)⇒潜在的な激しい競争を抑制し価格協調を行なう強い蓋然性

これらの条件が消滅または弱化⇒潜在化していた競争・対立の _____

(b) 利潤の長期最大化のための計画的行動の可能性

高い市場集中度＝部門全体の生産能力に占める個別企業の実産能力の比率が _____

i) 部門全体の需給の状態の把握

ii) 自己の実産量の増減・生産能力の追加が部門全体に与える影響の予測

iii) 協調的行動によってライバル企業の行動の不確実性が低下

*長期的条件を考慮した _____ 行動が可能かつ合理的となる

(2) 独占価格設定における協調の諸形態

① カルテル(明示的協定)

部門内企業の交渉による協定の締結

_____カルテル：販売価格の統一・統制

_____カルテル：部門全体および参加各企業の生産・供給量の統制

協定の締結・遵守のため

協定事項に関する文書，規則的な会合，常設の委員会，協定違反の場合の罰則などが存在

② 暗黙の協定

各企業の交渉による価格や生産量の統制

協定は_____で締結，罰則規定など_____

協定の遵守は？ 相互の_____関係・_____関係のみ

{ 協調的行動による利益と
敵対的行動による不利益の自覚

協調的行動による部門内企業全体の利潤の長期最大化

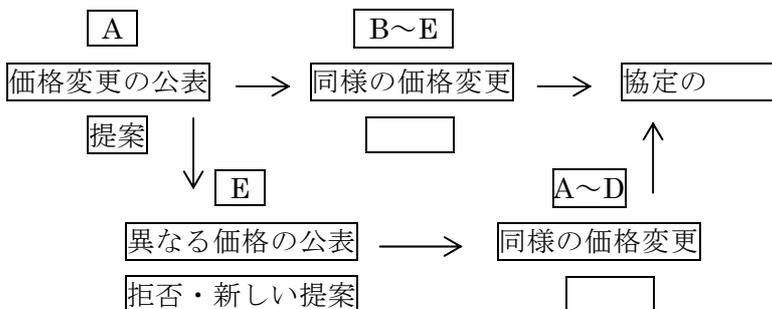
⇒ _____の利潤の長期最大化

①・②は高い市場集中度を必要としない⇒反独占(Anti-trust)政策により原則非合法化

③ 暗黙の相互諒解

部門内企業が相互に有利な価格水準を暗黙のうちに諒解して共同行動

ある部門に A～E の企業が存在



暗黙の相互了解の特徴

(a) 高い市場集中度が前提

暗黙の相互諒解が成立するのは？

各企業が協調の _____ と非協調の _____ を十分に認識している場合

(b) 対象は _____ の統一だけ

生産制限を監視する機構がない→生産量の割り当て・規制は _____

(c) 独占的共謀を把握して規制するのは _____

明示的な協定はもちろん暗黙の協定もなし

例：プライス・リーダーシップ

プライス・リーダーが価格設定・変更の先導的役割→他企業は迅速に _____

(a) プライス・リーダーは他企業が追随しやすい価格水準を考慮しつつ

自己に _____ な価格設定が可能

(b) 追随しない企業に対しては？

攻撃的 _____ 等の対抗的行動によって追随を強制

こうした行動を取りうるプライス・リーダーは通常、部門内の _____ ・ _____ の企業

⇒独占企業は短期的な利潤を犠牲にしても激しい _____ 拡大競争を行なう

(3) 独占価格の設定

課題：独占企業は利潤の長期最大化のために、どのように価格設定を行なっていくか

① 部門内独占企業間で生産条件の差がない場合

⇒価格設定において生産条件の差による利害の不一致がない

この条件のもとでは、部門内企業の全利潤(共同利潤)の最大化 = _____ の利潤最大化

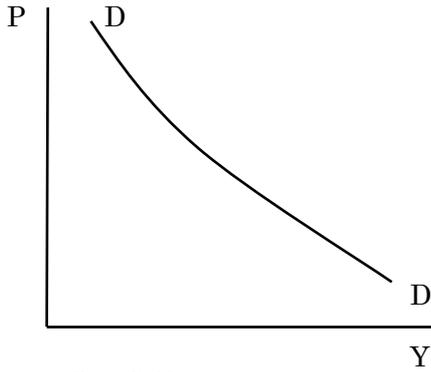
(a) 独占価格の決定方法

i) 産業需要曲線の形と位置

需要の長期的・平均的状态のもとでの価格と需要の対応関係の把握と予想

独占企業といえども長期的な需要曲線の正確な把握とその変化の予測は困難

競争的市場に比べれば経験の累積とマーケティング技術の発達により予測可能



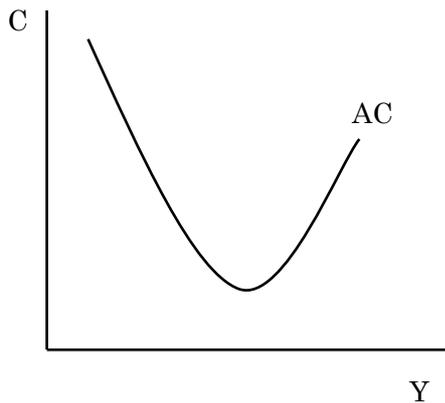
ii) 費用曲線

固定費用の存在

生産量の増大→生産物 1 単位あたりの平均費用 _____

生産量がある水準を超えると平均費用 _____

⇒費用曲線は一般に _____ の曲線

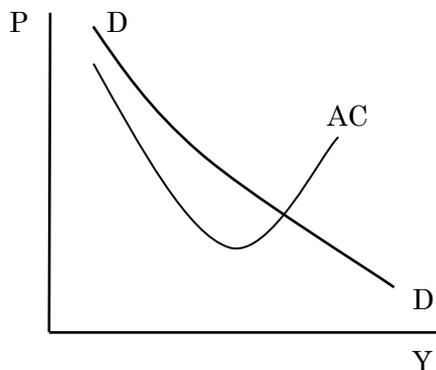


ある水準：

設備の超過稼働→ _____ ・ _____ の増加

労働時間延長 → _____ の増加

iii) 需要曲線と費用曲線の対応関係



さまざまな価格水準における利潤量・利潤率を推計

⇒部門全体の利潤を最大化する _____ 水準・供給量水準を選択

= 共同利潤の長期最大化価格

(b) 設定された独占価格の維持

i) 余裕能力の保有

正常稼働率：選択された価格・供給量水準のもとでの稼働率

生産能力－生産能力×正常稼働率＝_____

標準固定費用：正常稼働率での生産物1単位あたりの固定費用

標準費用：標準固定費用に原材料費などの_____を加算

生産物1単位あたりの利潤：販売価格と標準費用との差

ii) 需要の一時的・小幅な増大・縮小

設定された独占価格のもとで需要の一時的・小幅の変化があった場合

→価格は固定(協調の維持)

＝稼働率調整(_____の増減)によって対処→生産量の増減→平均固定費用の変化

⇒需要増減・生産量増減にかかわらず安定的・確実な投下固定資本価値の回収

* _____の安定的補填と利潤の長期最大化の実現が目的

iii) 予想を超える長期的な需要の変化

長期的な需要低下の場合

価格低下による販売量確保の可能性

→価格切下げ競争の発生の危険性

→_____活動による需要拡大の追及

長期的で大幅な需要拡大の場合

余裕能力の活用＝稼働率の上昇で対応しきれない場合

⇒生産能力拡大のための_____投資

iv) 費用の変化

原材料費や賃金が増加した場合

前提により生産条件に差がない⇒各企業の利害は一致

費用の変化→価格に反映

② 各企業で生産条件に優劣がある場合

共同利潤の最大化価格 ____ 個別企業の利潤最大化価格

⇒各企業の要求する価格水準の差

どのような価格水準で協調が成立するか？

(a) 固定資本比率の高低 ⇒平均費用曲線の差

固定資本比率の高い企業：

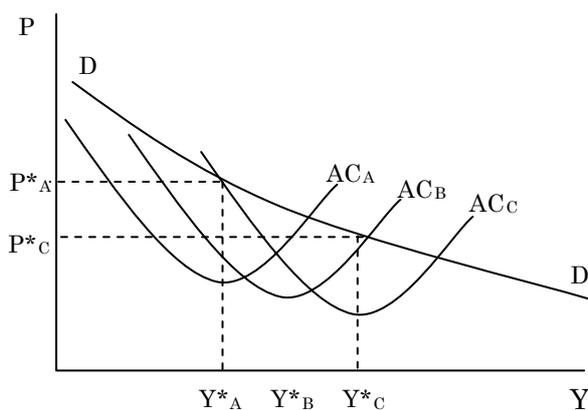
生産物 1 単位あたり固定費用 ____ 部門平均

稼働率低下の場合の利潤減少 ____ 部門平均

要求する価格水準 ____ 共同利潤最大化価格

費用曲線の差と利潤最大化価格水準の差

固定資本比率低→高：企業 A→企業 C



平均費用が極小の生産量：A ____ C

利潤最大化価格：A ____ C

(b) 借入金依存度の高低

借入金依存度の高い企業

生産物 1 単位あたりの利子 ____ 部門平均

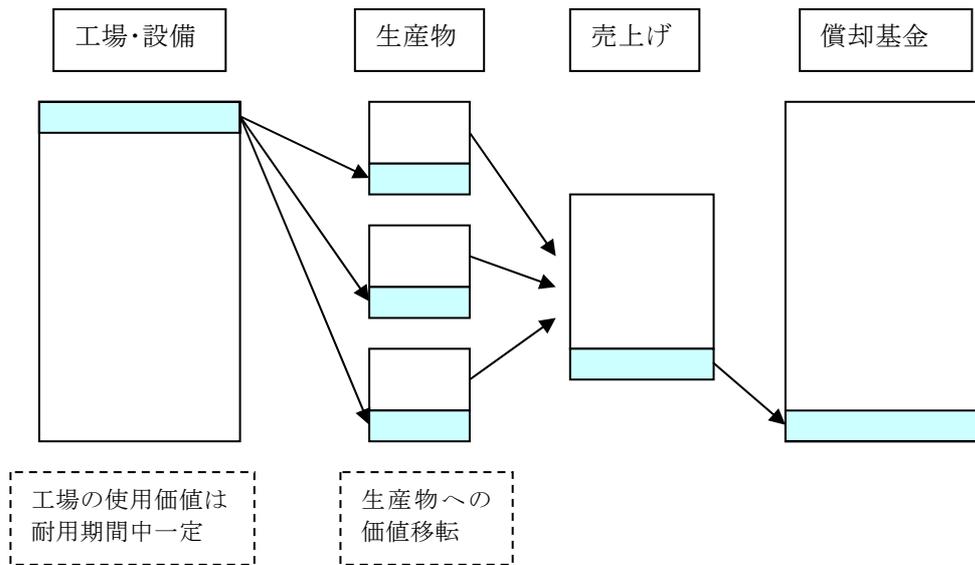
要求する価格水準 ____ 共同利潤最大化価格

(c) 固定設備の償却率の高低

減価償却における定額法と定率法

定額法による減価償却(=減価償却の原理)

固定設備の耐用年数を 10 年とすると



定率法による減価償却：残存価値の一定率を減価償却

*加速度償却：例 初年度 50%の償却を認めるとすると？

→初年度の減価償却費は___億円 →___億円を利潤から費用として控除できる！

固定設備の償却率の低い企業→減価償却費比率が相対的に高くなる

生産物 1 単位あたり固定費用___部門平均

要求する価格水準___共同利潤最大化価格

(d) 協調が成立する価格水準

独占価格設定における企業間の協調は異なる要求をもつ企業間の妥協で成立

どのような企業の要求が貫徹するか？

企業間の対立・競争が全面化した場合の闘争力・耐久力*に依存

*闘争力・耐久力：生産能力・生産力・技術力・販売力・資本力・資本調達力・・・

⇒生産能力シェア・市場シェアの序列=_____

一般的傾向：協調成立の価格水準___共同利潤の長期最大化価格

設定された独占価格のもとで、各企業は価格競争を回避して独占利潤を獲得

* 価格競争の制限___企業間競争の消滅

市場シェアの拡大⇒自己に有利な価格水準の設定⇒シェア拡大をめざす_____競争の激化